

メンタルヘルス・マネジメント検定試験

大阪商工会議所

<https://www.mental-health.ne.jp/>

累計72万人以上が受験申込！職場内での役割に応じて必要なメンタルヘルスケアに関する知識や対処方法を習得する検定試験です！

提供可能エリア(可能エリアが青塗)			
北海道	東北	関東	甲信越
北陸	東海	近畿	中国
四国	九州	沖縄	海外

提供可能法人規模(◎：実績あり、○：提供可)			
50人未満	1,000人未満	10,000人未満	10,000人以上
◎	◎	◎	◎

サービスの目的・期待される効果	
【凡例】◎：実証評価>●：理論的裏付け>○：ユーザー評価	
基盤整備	法制度対応 ○
	制度・施策体系の整理 ○
	人事・産業保健業務の効率化・負担減 -
	組織状況の把握 -
取組の普及・浸透	サーベイ受検率向上 -
	相談窓口の利用率・認知率向上 -
	プログラムへの参加率・利用率向上 -
	不調の早期発見・対応 ○
	ヘルスリテラシー・意識向上 ○
	仕事のストレス要因低減 -
	心理的安全性・上司のサポート力向上 ○
周囲のサポート力向上 ○	
心の健康・業務パフォーマンス	生活習慣の改善 -
	健康状態・心理指標改善 -
	アブゼンティーズム改善 -
	プレゼンティーズム改善 -
	ワーク・エンゲージメント向上 -
	従業員エンゲージメント向上 -
労務指標改善(離職率、残業時間等) -	

サービスの概要・特徴
<p>【概要】働く人たちの心の不調の未然防止と活力ある職場づくりを目指して、職場内での役割に応じて必要なメンタルヘルスケアに関する知識や対処方法を習得する検定試験</p> <p>【実施方法】</p> <p>○「公開試験」(統一試験日に全国15都市で実施(11月・3月))</p> <p>○「団体特別試験」(企業等が任意に試験日時・場所を設定し実施)</p> <p>【コース】業種・業態・規模などに関わらず、職場での役割に応じて下記の3コースを設定。</p> <p>○Ⅰ種(マスターコース：人事労務管理スタッフ・経営幹部向け)</p> <p>○Ⅱ種(ラインケアコース：管理監督者・管理職向け)</p> <p>○Ⅲ種(セルフケアコース：一般社員向け)</p> <p>【特徴】</p> <ol style="list-style-type: none"> 厚生労働省策定の「労働者の心の健康の保持増進のための指針(メンタルヘルス指針)」を参考に各コースの内容を構築 2006年より当検定試験を実施。累計申込者数は72万人を突破(公開試験・団体特別試験の合計) 管理職にはⅡ種(ラインケアコース)の取得を奨励する企業が増加 当検定試験の取得支援を行うことで、健康経営に積極的に取り組む企業としても評価され得る
導入企業の評価
<p>【団体受験】○職場リーダーの昇格推薦要件として検定試験2種を学習し、学んだ知識を現場で活用している。○団体特別試験制度を利用し、心の不調による休職者の抑制や良好なコミュニケーションの一助となった。○メンタルヘルス対策の意義の浸透や不調者への対応、休職者の復帰支援のルール化に役立てた。○「自身の心身の状態に意識が向くようになった」「部下のいつもと違った様子に気づくことが増えた」という受験者の声が多く、社内の意識や対話の質が向上したと感じる。○部下を持つ社員が知識を習得することで早期対応が可能となった。○心のケアを「自分ごと」として捉える社員が明らかに増え、社内全体のリテラシー向上を実感する。</p> <p>【個人受験】○テキストにある「職場復帰支援プログラム」を実態に応じたプログラムに加工し職場で実践した。○精神的不調は誰にでも起こり得るため、組織で支え合う風土が不可欠と再認識できた。○学習したストレス管理の技術をもとに良好な職場作りに向けた議論を進め、チーム全体の生産性やモチベーションが向上した。○従業員が抱える問題への接し方や話の聴き方、専門家への意見を求めるなど管理職としての対応が身についた。</p>

メンタルヘルス・マネジメント検定試験**大阪商工会議所**<https://www.mental-health.ne.jp/>**理論的裏付け****採用している理論の概要****実証評価****学術介入の有無**

学術研究機関等による科学的な効果検証

学術研究期間等が介在しない独自の効果検証

エビデンスの水準

ランダム化比較試験

非ランダム化比較試験

単純前後比較などの準
実験的研究

コホート研究

横断研究または症例対
照研究**実証評価の結果概要**